

種の「図書館」興味も育む

野菜や花30種 児童らへ貸し出し

愛知教育大付属岡崎小学校（岡崎市六供町）は事務室で、児童らに野菜や花の種を本のように貸し出している。自然や農業に興味を持ってもらおうと、事務職員 的 名 正 樹 さん（三十九）が昨年十一月から始めた。

（土屋あいら）

愛教大付属岡崎小事務職・的 名 正 樹 さん



児童に野菜や花の種を貸し出す的 名 正 樹 さん（右）岡崎市六供町で

「どれにしようかな？」。休み時間に児童たちが事務室の受付に集まる。机に置かれた箱の中には、トマトやオクラ、ヒマワリ、マリーゴールドなど約三十種類の種がずらり。児童たちは好きな種が入った袋を選ぶと、貸出簿に名前や日付、借りた種名を記入。「家で頑張って育ててみる」と持ち帰っていった。

取り組みを考案した的 名 正 樹 さんは、昨年七月に愛教大（刈谷市）から付属小学校に異動。九年前に大学の付属図書館で種の貸し出しを行っており、数年前に小学校で復活させた。「大学と比べると、小学校では事務方と児童の関わりが少なく感じていた。種の貸し出しを通じて、事務室を身近に感じてもらえたらうれしい」と話す。児童が好きな野菜や花を育てることで、友だちや親との会話のきっかけにも期待している。

種は何世代でも自己採取できる固定種を使用。貸し出し後は①種を自宅などで育ててもらおう②新たに取れた種を一部返してもらおう③その種を再び貸し出すという流れ。現在は全校児童五百六十六人のうち、約二百三十人が種を借りて育てているという。保護者や教職員も借りることができる。

的 名 正 樹 さんは「『種をまいたよ』と報告してくれる子もいる。このような取り組みが他校にも広がってほしいし、今後も教職員や子どもに役立つことを事務室から発信していきたい」と話す。